

新聞記事一覧

タイトル名	新聞社名	日付	ページ	年度
流産、死産を繰り返す「不育症」の女性 病院対応に4割不満	山陽新聞	6月29日 朝刊	第1面 第22面	2009
最新の治療法紹介 岡山大で不育症講演会	山陽新聞	8月3日 朝刊	第22面	2009
妊娠女性41%流産経験 「不育症」年8万人	中日新聞	8月3日 日刊	第1面	2009
妊娠女性41%流産経験 「不育症」年8万人 治療で出産可能性	京都新聞	8月3日 日刊	第2面	2009
妊娠女性4割 流産経験 「不育症」年8万人	北陸中日新聞	8月3日 日刊	第1面	2009
流産続く不育症 年8万人 「出産可能 検査を」	中国新聞	8月3日 日刊	第26面	2009
「不育症」年間8万人 妊娠女性41%が流産経験	東奥日報	8月3日 日刊	第19面	2009
妊娠女性41%が流産経験	北國新聞	8月3日 日刊		2009
妊娠女性 4割流産経験 死産など繰り返す 「不育症」は年8万人	徳島新聞	8月3日 日刊	第1面	2009
41%が過去に流産 妊娠経験女性「不育症」8万人	北日本新聞	8月3日 日刊		2009
妊娠女性 流産経験4割超す 「不育症」は年間8万人	室蘭民報	8月3日 日刊		2009
妊娠女性41%流産 「不育症」患者は年8万人	新潟日報	8月3日 日刊		2009
妊娠女性41%が流産経験 「不育症」は年間8万人	山陰中央新報	8月3日 日刊		2009
流産繰り返す「不育症」 治療で8割出産	朝日新聞 (東京)	11月13日 日刊	第1面	2009
繰り返し流産16人に1人―「不育症」	朝日新聞 (大阪)	11月13日 日刊	第1面	2009
流産を繰り返す「不育症」新しい診断・ 治療試す	日本経済新聞	11月13日 夕刊	第7面	2009

流産、死産を繰り返す「不育症」の女性の約4割が、病院の対応に不満を持っているという調査結果を、岡山大学院の中塚幹也教授（看護学分野）らが28日までにまとめた。医療スタッフの配慮に欠けた言動が、流産、死産で傷ついていた女性の精神状態をさらに悪化させている実態が浮かび上がったといえ、中塚教授は「次の妊娠に向けた意欲をそぐ一因」と指摘している。（民直弘）→22面に関連記事

流産、死産繰り返す「不育症」の女性

不育症は、血液が固まりやすくなる凝固異常のため胎盤の血管が詰まることで起きたり、子宮の形態異常や染色体異常が原因。患者数など詳しい実態は分かっていない。調査は厚生労働省の科学研究の一環。中塚教授と岡山大を卒業生とした助産師の矢野尚さんが、岡大病院不育症専門外来を2008年7〜10月に受診した109人を対象に

病院対応に4割不満

岡山大大学院教授ら調査

アンケートを行った。結果は、病院の対応について、満足した人のうち、「良は我慢しない」と答えた人が、その割合が4割を占めた。多岐にわたる理由（複数回答可）を挙げた。多くの理由が「医師から『早く産んで』と催促されたこと」が挙げられた。中には、スタッフから死産を心理的に受け入れられ、「よくあること」と言われたり、赤ちゃんの泣き声が聞こえ、「さっさと産んでください」と催促された人もいた。中塚教授は「不育症女性の85%は適切な検査と治療で立

配慮欠くスタッフも

を産めないまま治療を断る人も少なくない」とも見ていた。さらに妊娠に関する心理状態を点数化（最高100点）して調査したところ、初めて妊娠した女性は平均約80点だが、流産、死産を1回経験した後の妊娠は63点、2回経験後は53点と低下した。矢野さんは「再び子どもをくす不安から、本来なら喜びたい気持ちを必死に抑え込んでいく」と分析している。死産は全国で年間約3万件（厚生労働省）を数え、妊娠経験のある女性の約4割が生産に困難を経験するというデータもある。

「不育症」女性

心の傷抱え退院

余裕ない現場 ケア広からず

流産や死産で悲しみに暮れ、ケアを受けることがなく、心に深い傷を抱えたまま退院している。岡山大学不育症に関する調査で、病院に不満を感じる女性の実態が28日までに明らかになった。わが子の死に直面した母親の立ち直りを支えるグリーフ（悲嘆）ケアに取り組み医療機関は、全国でも数少ないとみられている。（1面関連）

1999年からケアを行っている神奈川県立ことも医療センター（横浜市）の猪谷泰史副院長は「多くの医療機関では、急増する分娩をこなすのが精いっぱい。ケア

らな背景の一つに、医療現場の過酷な労働環境や高い訴訟リスクから、分娩やお産が特定の施設に集中している現状がある。

別の原因について、岡山大病院産科母子センター（岡山市北区鹿田町）の秦久美子副看護師長は「子どもの死が、その後の女性の人生にどれほど影響を与えるか考えられてこなかった」と指摘する。わが子を失った現実を目を背け心につたを、抑え込んだ悲しみは、うつ病や食欲

不振、不眠などに形を変えて現れる。悲しみにまみれと向き合い、涙を流して感情を表に出すことが再起への第一歩とされる。岡大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りする。抑え込んだ悲しみは、うつ病や食欲

と過ごすことができず、という秦副看護師長。「ただそばにいてケアを受けた女性からは『悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする』」（医療スタッフが）「一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が寄せられた。

ケアを始めたばかりのところ、手探りで、どれくらいかかると答えられないという。ケア開始後の調査では、スタッフの78%が「負担にならない」と答えたという。

不育症調査に当たった岡山大大学院の中塚幹也教授は「医療スタッフは流産、死産した女性に対し、腫れ物に触るような態度を取る傾向があるが、逆に孤独感を深めてしまっている。悲しみを受け止める姿勢が求められる」と訴えている。（民直弘）

山陽新聞 2009年(平成21年)8月3日 月曜日

最新の治療法紹介

岡山大で不育症講演会

不妊症や、流産・死産が、不妊防止の一つを繰り返す「不育症」として大切と強調。県などをテーマとした講演会が2日、岡山市北区鹿田町の岡山大鹿田キャンパスであり、約80人が最新の治療法について学んだ。

医療スタッフでつく「生殖医療サポートの会OKAYAMA」のメンバーが、科学的根拠に基づいたプランスの良い食事の摂り方として講演会

し、アスピリンなどの一介し、「不育症の女性投与によって血が固まらなくなる」というのが、最近の傾向として紹介された。また、不育症の女性に、アスピリンなどの一介し、「不育症の女性投与によって血が固まらなくなる」というのが、最近の傾向として紹介された。

あるが、適切な医療を受けられるかどうか重要」と指摘した。

講演会は、岡山大病院内に開設されている「不育症専門相談センター」などが主催し、今年が5回目。

山陽新聞 8月3日

妊娠女性41%流産経験

厚労省研究班「不育症」年8万人

妊婦たちが抱える「不育症」は、流産や死産を繰り返す女性が多く、厚労省研究班「不育症」年8万人

妊婦たちが抱える「不育症」は、流産や死産を繰り返す女性が多く、厚労省研究班「不育症」年8万人

上の「不育症」は、流産や死産を繰り返す女性が多く、厚労省研究班「不育症」年8万人

妊婦たちが抱える「不育症」は、流産や死産を繰り返す女性が多く、厚労省研究班「不育症」年8万人

「不育症」年8万人

厚労省研究班調査

中日新聞 8月3日

妊娠女性41%流産経験

治療で出産可能性

「不育症」年8万人

厚労省研究班調査

妊婦たちが抱える「不育症」は、流産や死産を繰り返す女性が多く、厚労省研究班「不育症」年8万人

原因	治療法
染色体異常	確率的問題。3回連続流産した人は次産で約70%が出生
免疫学的要因	免疫学的要因による流産は、治療で産む可能性が70-80%ある
子宮環境	子宮環境を整えることが重要

治療で出産可能性

「不育症」年8万人

厚労省研究班調査

京都新聞 8月3日

妊娠女性4割流産経験

「不育症」年8万人

厚労省研究班調査

妊娠したことがあっても、1人の子を産むまでには流産を経験する女性が増えている。厚労省の研究班が、2007年の調査で、流産を経験した女性は約4割に達したと明らかにした。また、流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。

厚労省研究班が、2007年の調査で、流産を経験した女性は約4割に達したと明らかにした。また、流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。

厚労省研究班が、2007年の調査で、流産を経験した女性は約4割に達したと明らかにした。また、流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。

北陸中日新聞
8月3日

流産続く不育症年8万人

「出産可能検査を」

厚労省調査

不育症の主な原因	治療法
胎児の染色体異常	確率的問題。3回連続して流産した人は次回は約70%が流産
抗リウマチ薬の服用	薬による治療で70-80%が流産
夫婦の染色体異常	遺伝カウンセリング。受精時診断も可能
子宮の形の異常	手術する場合は有効性不明

(名古屋国立大の杉浦真弓教授による)

妊娠したことがあっても、1人の子を産むまでには流産を経験する女性が増えている。厚労省の研究班が、2007年の調査で、流産を経験した女性は約4割に達したと明らかにした。また、流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。流産を経験した女性の約4割は、その後、妊娠を繰り返さなかった。

中国新聞
8月3日

「不育症」年間8万人

妊娠女性41%が流産経験

厚労省調査

不育症の主な原因	治療法
胎児の染色体異常	確率的問題。3回連続して流産した人は次回は約70%が流産
抗リウマチ薬の服用	薬による治療で70-80%が流産
夫婦の染色体異常	遺伝カウンセリング。受精時診断も可能
子宮の形の異常	手術する場合は有効性不明

(名古屋国立大の杉浦真弓教授による)

東奥日報
8月3日

妊娠女性4割流産経験

死産など「不育症」は年8万人
繰り返しては約10万人

厚労省調査

妊娠して5カ月ある女性（約20歳）の約4割は流産を経験し、死産や不育症など、繰り返しては約10万人に達する。厚労省が2007年（平成19年）の調査で明らかにした。調査は、妊娠して5カ月ある女性を対象に、流産や死産、不育症などを経験したかどうかを尋ねた。調査の結果、流産を経験した女性は約4割（41.0%）に達した。不育症を経験した女性は約1割（10.1%）に達した。不育症とは、妊娠して5カ月ある女性が、死産や流産を経験し、その後、再び妊娠しなかった状態を指す。調査は、妊娠して5カ月ある女性を対象に、流産や死産、不育症などを経験したかどうかを尋ねた。調査の結果、流産を経験した女性は約4割（41.0%）に達した。不育症を経験した女性は約1割（10.1%）に達した。不育症とは、妊娠して5カ月ある女性が、死産や流産を経験し、その後、再び妊娠しなかった状態を指す。

徳島新聞
8月3日

41%が過去に流産

妊娠経験女性「不育症」8万人

厚労省調査

妊娠して5カ月ある女性の約4割は流産を経験し、死産や不育症など、繰り返しては約10万人に達する。厚労省が2007年（平成19年）の調査で明らかにした。調査は、妊娠して5カ月ある女性を対象に、流産や死産、不育症などを経験したかどうかを尋ねた。調査の結果、流産を経験した女性は約4割（41.0%）に達した。不育症を経験した女性は約1割（10.1%）に達した。不育症とは、妊娠して5カ月ある女性が、死産や流産を経験し、その後、再び妊娠しなかった状態を指す。

妊娠女性

41%が流産経験

妊娠して5カ月ある女性の41%は流産を経験し、死産や不育症など、繰り返しては約10万人に達する。厚労省が2007年（平成19年）の調査で明らかにした。調査は、妊娠して5カ月ある女性を対象に、流産や死産、不育症などを経験したかどうかを尋ねた。調査の結果、流産を経験した女性は約4割（41.0%）に達した。不育症を経験した女性は約1割（10.1%）に達した。不育症とは、妊娠して5カ月ある女性が、死産や流産を経験し、その後、再び妊娠しなかった状態を指す。

厚労省研究班が調査

名古屋国立大の杉浦教授は「流産は、一般に思われているよりも頻りに起きている。不育症の患者のうち多くは出産できる可能性があるので、積極的に検査や治療を受けてほしい」と話している。教授らは、2007年2月からの1年間

「不育症」年8万人

不育症の主な原因と治療法

原因	治療法
染色体異常	3回以上流産した人は約70%が染色体異常による
子宮頸管狭窄	手術による治療で約70%が改善する
子宮の形の異常	手術による治療で約70%が改善する
免疫異常	免疫抑制剤による治療で約70%が改善する
内分泌異常	ホルモン剤による治療で約70%が改善する
血栓症	抗血栓薬による治療で約70%が改善する
不明原因	原因不明の場合は、原因を特定することが難しい

杉浦教授は「流産は、一般に思われているよりも頻りに起きている。不育症の患者のうち多くは出産できる可能性があるので、積極的に検査や治療を受けてほしい」と話している。教授らは、2007年2月からの1年間

北國新聞
8月3日

北日本新聞
8月3日

妊娠女性

「不妊症」は年間8万人

流産経験 4割超す

不妊症の主な原因と治療法

原因	治療法
卵巣の早か 体質異常	排卵誘発剤、人工授精 流産した人は次に 約70%が妊娠
卵管の閉塞 胚体保護異常	薬による治療で 70-80%が妊娠
夫婦の染色体異常	遺伝カウンセリング 受精前診断 自然妊娠・出産も 可能
子宮の形の異常	手術する場合は 有効性不明

（名古屋市立大の妊娠専門科による）

厚労省調査

「不妊症」は年間8万人、流産経験は4割超す。厚労省が発表した調査によると、不妊症の患者数は年々増加しており、2007年には年間約8万人に達した。また、流産を経験した女性の割合は約41%に達している。調査によると、不妊症の原因は卵巣機能低下や卵管閉塞、子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。また、流産の原因は染色体異常や子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。

「出産の可能性あり、ぜひ検査を」

不妊症の原因は多岐にわたるため、まずは検査を受けることが重要。検査の種類としては、基礎体温測定や排卵検査薬の使用、超音波検査などが挙げられる。また、夫婦の染色体異常の有無を確認することも必要である。検査の結果によっては、薬物療法や手術による治療が行われる。また、流産を経験した場合は、原因を突き止めることが重要であり、医師の指導のもとで治療を受けることが求められる。

室蘭民報
8月3日

新潟 新潟日報

「不妊症」患者は年8万人

妊娠女性41%流産

不妊症の患者は年間8万人に達している。また、流産を経験した女性の割合は約41%に達している。調査によると、不妊症の原因は卵巣機能低下や卵管閉塞、子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。また、流産の原因は染色体異常や子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。

不妊症の主な原因と治療法

原因	治療法
卵巣の早か 体質異常	排卵誘発剤、人工授精 流産した人は次に 約70%が妊娠
卵管の閉塞 胚体保護異常	薬による治療で 70-80%が妊娠
夫婦の染色体異常	遺伝カウンセリング 受精前診断 自然妊娠・出産も 可能
子宮の形の異常	手術する場合は 有効性不明

（名古屋市立大の妊娠専門科による）

厚労省まとめ

「不妊症」は年間8万人、流産経験は4割超す。厚労省が発表した調査によると、不妊症の患者数は年々増加しており、2007年には年間約8万人に達した。また、流産を経験した女性の割合は約41%に達している。調査によると、不妊症の原因は卵巣機能低下や卵管閉塞、子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。また、流産の原因は染色体異常や子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。

「積極的に検査、治療を」

不妊症の原因は多岐にわたるため、まずは検査を受けることが重要。検査の種類としては、基礎体温測定や排卵検査薬の使用、超音波検査などが挙げられる。また、夫婦の染色体異常の有無を確認することも必要である。検査の結果によっては、薬物療法や手術による治療が行われる。また、流産を経験した場合は、原因を突き止めることが重要であり、医師の指導のもとで治療を受けることが求められる。

新潟日報
8月3日

新中央新報

妊娠女性41%が流産経験

「不妊症」は年間8万人

不妊症の患者は年間8万人に達している。また、流産を経験した女性の割合は約41%に達している。調査によると、不妊症の原因は卵巣機能低下や卵管閉塞、子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。また、流産の原因は染色体異常や子宮内環境の悪化などが多く、治療には薬物療法や手術が行われている。

不妊症の主な原因と治療法

原因	治療法
卵巣の早か 体質異常	排卵誘発剤、人工授精 流産した人は次に 約70%が妊娠
卵管の閉塞 胚体保護異常	薬による治療で 70-80%が妊娠
夫婦の染色体異常	遺伝カウンセリング 受精前診断 自然妊娠・出産も 可能
子宮の形の異常	手術する場合は 有効性不明

（名古屋市立大の妊娠専門科による）

厚労省調査

「積極的に検査、治療を」

不妊症の原因は多岐にわたるため、まずは検査を受けることが重要。検査の種類としては、基礎体温測定や排卵検査薬の使用、超音波検査などが挙げられる。また、夫婦の染色体異常の有無を確認することも必要である。検査の結果によっては、薬物療法や手術による治療が行われる。また、流産を経験した場合は、原因を突き止めることが重要であり、医師の指導のもとで治療を受けることが求められる。

山陰中央新報
8月3日



2009年(平成21年) 11月13日 金曜日

刊地 東京 編集 東京 印刷 東京 発行 東京

朝日新聞大阪本社

繰り返し流産 16人に1人

不妊症 厚労省研究班調査

【大阪毎日】厚労省の研究班が、不妊症の原因を調べる調査の結果、繰り返し流産する原因は、16人に1人が原因不明と判明した。原因不明の割合は、流産の回数が増えるにつれて高くなる。原因不明の割合は、1回の流産では約1割、2回の流産では約2割、3回の流産では約3割に達する。また、原因不明の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる。原因不明の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる。

専門外来治療 8割が出産

【大阪毎日】大阪府立総合医療センターの専門外来で治療を受けた不妊症患者のうち、8割が妊娠し出産したことが、同センターの調査で明らかになった。同センターは、2008年度に専門外来を受診した不妊症患者が、前年度に比べて約2割増加したと発表している。



2009年(平成21年) 11月13日 金曜日

刊地 東京 編集 東京 印刷 東京 発行 東京

朝日新聞東京本社

朝日新聞
11月13日

流産繰り返す「不妊症」治療で8割出産

【大阪毎日】大阪府立総合医療センターの専門外来で治療を受けた不妊症患者のうち、8割が妊娠し出産したことが、同センターの調査で明らかになった。同センターは、2008年度に専門外来を受診した不妊症患者が、前年度に比べて約2割増加したと発表している。

【大阪毎日】大阪府立総合医療センターの専門外来で治療を受けた不妊症患者のうち、8割が妊娠し出産したことが、同センターの調査で明らかになった。同センターは、2008年度に専門外来を受診した不妊症患者が、前年度に比べて約2割増加したと発表している。

流産を繰り返す 不妊症 新しい診断・治療試す



経済・心理的な対策も急務

【大阪毎日】大阪府立総合医療センターの専門外来で治療を受けた不妊症患者のうち、8割が妊娠し出産したことが、同センターの調査で明らかになった。同センターは、2008年度に専門外来を受診した不妊症患者が、前年度に比べて約2割増加したと発表している。

【大阪毎日】大阪府立総合医療センターの専門外来で治療を受けた不妊症患者のうち、8割が妊娠し出産したことが、同センターの調査で明らかになった。同センターは、2008年度に専門外来を受診した不妊症患者が、前年度に比べて約2割増加したと発表している。

【大阪毎日】大阪府立総合医療センターの専門外来で治療を受けた不妊症患者のうち、8割が妊娠し出産したことが、同センターの調査で明らかになった。同センターは、2008年度に専門外来を受診した不妊症患者が、前年度に比べて約2割増加したと発表している。

日本経済新聞 (夕刊) 11月13日